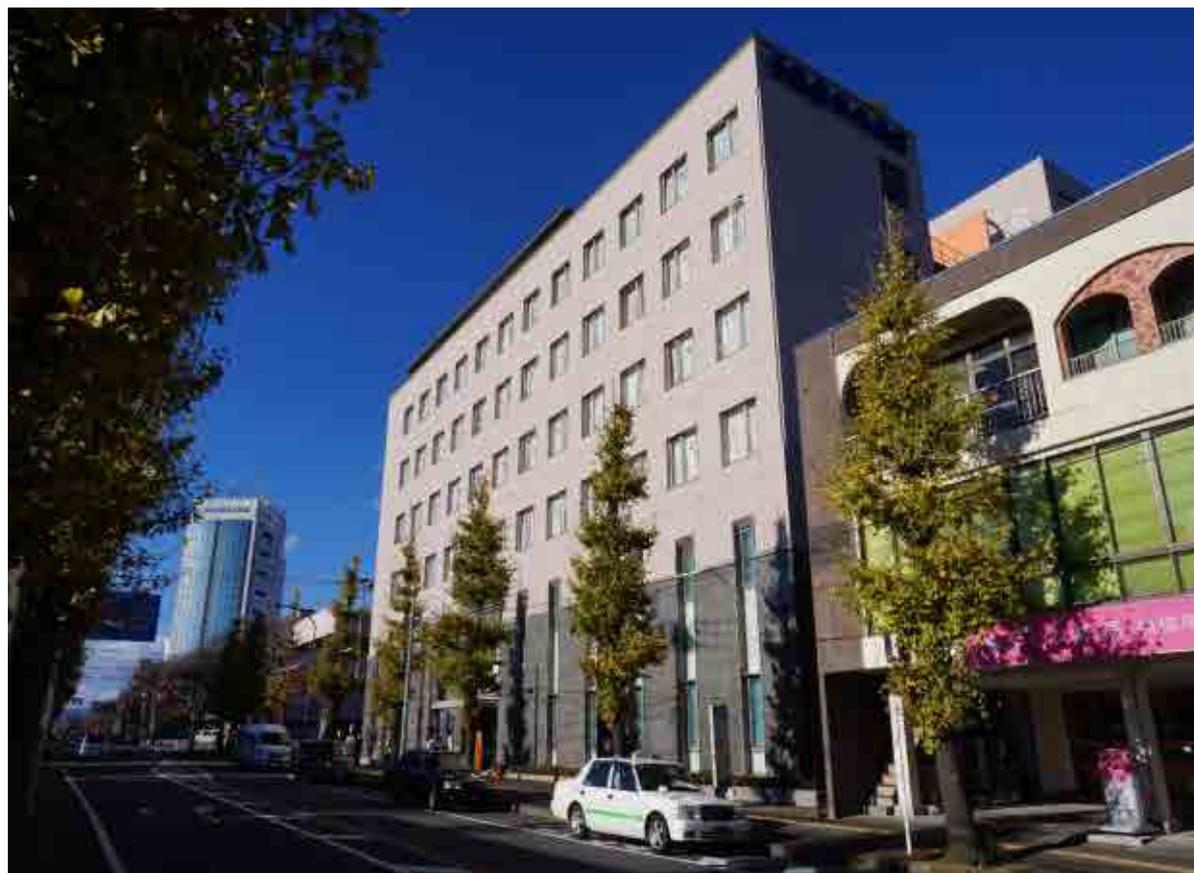


偏見・差別とプライバシーに関する ワーキンググループ 関係資料



相模原中央病院
院長 中野 太郎
事務長 小倉 嘉雄

相模原中央病院の紹介

病 長 中野 太郎

開 設 昭和45年7月

職員数 約300名

許可病床数 160床 (急性期一般病棟 2病棟)
(地域包括ケア病棟 1病棟)

外来患者数 380名

入院患者数 120名

診療科目

外科 脳神経外科 整形外科 内科 循環器内科 形成外科

皮膚科 泌尿器科 消化器外科 肛門外科 消化器内科

リハビリテーション科 麻酔科 脂質代謝内科 消化器内科

内視鏡内科 内視鏡外科 放射線科 へいクリニック

新型コロナウイルスの感染確認

当院は、新型コロナウイルス感染によって命を奪われた日本で最初の患者が発生当初入院していた病院として、2月中旬実名で報道された。当時は市中で新型コロナウイルス肺炎が発症し始めた頃であり、疾患そのものの病態が分からず、かつ治療法や予防法も不明であったことから人々から恐れられ、様々な憶測から風評被害にさらされた。

最初の患者を受け持った看護師1名の感染と、入院患者3名に新型コロナウイルスの感染が確認された。

行政の指導もあり、ホームページにコロナ感染の確認と外来休診の情報をアップするや否や、報道機関より取材の電話が鳴り続けた。

午後になると新聞記者やマスコミ関係者が殺到し、航空写真とともにトップニュースで取り上げられた。

報道について

連日のように相模原中央病院の報道が続いて、病院全体・勤務する職員全員が新型コロナウイルスに感染しているかのようなイメージが作られた。

当院には関係ない「コロナ」関連記事に、相模原中央病院の外観画像が使用されるなど、感染病院のイメージが構築された。

関連病院からの医師派遣停止

報道を受け関連の大学病院の理事長より連絡が入った。

内容は、暫くの間、非常勤医師の派遣を停止させていただくとの趣旨であった。

20名程度の医師の派遣が停止され、病院機能としては、当該病棟の受け入れ中止のみならず、発症者のいない他の2病棟も閉鎖、外来の全面停止、検査・手術の延期など、医療崩壊を招いた。

限られた常勤医師でコロナに感染した重症患者を含め、全ての患者へ昼夜共に対応することとなった。

入院中の患者さんについて

当院は、外科系が主体の一般病院で、常勤の感染症専門医や呼吸器科専門医はいない。こうした中でCOVID-19の感染者への対応が必要となった。

発症された3名の患者さんのうち2名は人工呼吸器管理となる重症化にいたった。

当時は、ダイヤモンド・プリンセス号からの多くの患者受け入れの影響で、県内の専門病院に転送ができない状況であった。

病院機能が停止しているなか、感染していない患者ですら、相模原中央病院に入院しているという理由で転院や施設入所も拒否された。

相模原中央病院の職員であることだけで（職員からの報告）

- ◆幼稚園や保育園側から、送迎のために敷地内に入ることや「明日も預けるつもりですか？」と、登園自体を拒否され傷つきました。
- ◆職員の子どもが小学校で発熱したため引き取りに行ったところ、校長室に呼び出され、職場や自身のこと等必要以上に事情聴取され、疲れ切ってしまった。なお、この職員のPCR検査は「陰性」と、報告済だったにも関わらずの聴取でした。
- ◆職員の子どもが、学校で「〇〇のお母さんはコロナが出た〇〇病院だ」と教室で言われ傷ついていましたが、当時誰にも言わず自分の胸に留めていました。

◆職員の子どもが、さも感染者の一人であるかのように、同級生母娘から毎日のように登校状況を観察されてました。

◆子どもの預け先から登園拒否されたことで、親族の協力を得るため、通常と異なる生活スタイルを余儀なくされたり、勤務時間を縮小しました。

◆感染した職員の子どもの名前や学校名等、事実と異なる情報がSNS上で拡散されてしまいました。

◆職員の父親が、勤務先から自宅待機を命じられ、その間の給与は一銭も支給しないとされました。

◆職員の子どもが、バイト先から出勤停止を強いられ、肩身の狭い思いをしました。

◆近隣住民の目が気になったり、同居者に基礎疾患や感染リスクの高い疾病のある方がいる職員は、自宅に帰らず、宿泊施設や別の親族の家で生活をしていました。

◆入院患者のご家族が、当院との関連性を指摘され勤務先から出勤を拒否されたと報告がありました。

◆友人や親族から、相模原中央病院を辞めるよう促されました。

◆オムツの配送業者が、当院に出入りしていることによる風評被害や感染リスクを恐れて、通常行っている納品物の院内への搬入や検品をせず、入口に置き去りにして行かれました。

◆クリーニング業者より、院内への立入を拒否されたため、搬入から搬出まで、仕分け業務含めた全てを、病院職員が代行せざるを得ませんでした。

◆散歩途中のご夫婦から、「（病院建物から）コロナが降ってきてそうね」と言われました。

政府及び関係機関へのお願い

新型コロナウイルスへの感染は、風邪をひくのと同様で誰にでも生じることです。スポーツ選手や有名芸能人の感染が明らかになると、報道も過熱します。

感染したことが悪いことで、お詫びすることについてもネガティブなイメージを作ってしまうことがあります。

患者やその家族、治療・感染対策に携わった方々の人権が侵害されないよう、風評被害を受けないよう、必要な取組をお願いしたいと思います。